

● 恵那市農業委員会だより ●



# ええのお

第7号

毎月第三土曜日は「たべとるマルシェ」の日



## 【たべとるマルシェ】

新規就農者や食農交流会に参加する若手農家20人を中心に立ち上げた「恵那NEW FARMERS (ニューファーマーズ) 交流会議」が、自分たちのこだわりの農作物を多くの人に知ってもらいたいという目的で企画したイベント「たべとるマルシェ」が市中央図書館で開催され、毎回大勢の来場者でにぎわっています。

会場では生産者がこだわりの農作物、商品について、来場者と対話をしPRしているのので、地元の安心安全な食を知り、直接買うことができます。

たべとるマルシェは、農作物の品質向上と生産者の販売力を身に付けることを目的に、恵那の「すごい農家に会える」そんなマルシェを目指して、今後第三土曜日に開催される予定です。会場はお子様連れでも来場しやすい市中央図書館。生産者とながら、直接買う楽しさや美味しさを感じに、ぜひ立ち寄ってみてください。

# 農業委員会先進地視察研修会を終えて

恵那市農業委員会 勝 滋幸 農業委員(山岡地区)



11月29日から30日にかけて、毎年実施している視察研修で滋賀県甲賀市の農事組合法人「酒人ふあむ」並びに京都府京田辺市農業委員会へ行きました。29日の農事組合法人「酒人ふあむ」では、農用地53・8haを集落一農場方式として営農管理されていました。地形は平地であり、区画整理をすれば1haの区画が出来、集落は農家が55戸で全員参加の農業経営を目指しています。組織はオペレーター・なごやか営農・すこやか営農・やすらぎ営農の4つのグループに分かれ、それぞれのグループの役割分担を決め、構成員のやりがいや生きがいを創出しながら活発に取り組んでおられました。又、土地は自作・営農組合・担い手の3つのゾーンに分かれ、効率の良い作業が出来ていると感じました。第二種兼業農家の多い地域で若者も巻き込んだ経営が出来ており、周辺地域に働ける企業が多くあり、兼業農家で若者がオペレーターとして確保できる。さらには文化、経済、環境なども若者が引っ張っていく宝となり、磨きがかかって艶が出てきていると感じました。もう一つ運営しているのは、大豆の種子圃場として19ha栽培し、多くの収入が

あるから経営が出来、分量配等ができる状況です。恵那市でも、集落営農組織の強化と農業経営および後継者対策をしっかりと行うことが必要と強く感じました。30日の京田辺市農業委員会では、面積43km<sup>2</sup>で人口7万人弱のコンパクトなイメージですが、毎年人口が増加しており、同志社大学京田辺市キャンパス(学生数2万人)もあるため、若者による地域の活性化が期待できます。

今回は、研修目的である遊休農地・耕作放棄地解消に向けた取り組みと特産品づくりを研修。この市では、「とんちレモン48」と名付けたレモンなどの柑橘類を育て、六次産業を目指す「レモンプロジェクト」を進めています。この土地にはジャバラや柚子より酸味が強い柑橘で加工品に向くとのこと。農業は儲けがなくなり、はだめだとの思いで、各種団体と連携をし、儲かる農業と耕作放棄地の解消につなげたいとレモンを植栽しています。



新規就農者(堀養蜂園) 堀 孝之(山岡) 母親の実家が養蜂園を営んでおり、幼い頃からミツバチとは近縁で、自然の多い岐阜県恵那市で育ちました。それをきっかけに21歳の頃から本格的に母の実家の養蜂園にて養蜂を学び、その後、植物(蜜源植物)を樹木医のもとで勉強し、29歳で堀養蜂園を起業し、今に至ります。常に自然と向き合い、自然を知りながら、ミツバチと共に歩んでいきます。はちみつを通して、繋がるお客様に感謝をして、満足して頂けるはちみつをお届け出来れば幸いです。

## 頑張る農業者 ええのお

### 自然と共に歩む養蜂園

新規就農者(堀養蜂園) 堀 孝之(山岡)

母親の実家が養蜂園を営んでおり、幼い頃からミツバチとは近縁で、自然の多い岐阜県恵那市で育ちました。

それをきっかけに21歳の頃から本格的に母の実家の養蜂園にて養蜂を学び、その後、植物(蜜源植物)を樹木医のもとで勉強し、29歳で堀養蜂園を起業し、今に至ります。

常に自然と向き合い、自然を知りながら、ミツバチと共に歩んでいきます。

はちみつを通して、繋がるお客様に感謝をして、満足して頂けるはちみつをお届け出来れば幸いです。

### 農地パトロール(利用状況調査)で地域の実態を

農業委員会では、①地域の農地利用の確認、②遊休農地の実態把握と発生防止・解消、③違反転用発生防止・早期発見を目的に毎年、市内全域で「農地パトロール(利用状況調査)」を実施しています。(農地法第30条)

この調査は、平成28年4月1日に改正農業委員会法が施行され、「農地利用の適正化」が農業委員会で「必須業務」となったことを踏まえ、重要な取組みの一つとなりました。

調査期間は、毎年9月から12月にかけて実施しています。

調査の方法は、地元の農業委員や農地利用最適化推進委員が農地を見回り、耕作の状況などを見て、「遊休農地(荒廃農地)」になっているかどうかを判断します。

皆様のご理解とご協力をお願いします。

#### 遊休農地とは

(1) 一年以上にわたって耕作されておらず、今後も耕作がされないと見込まれる農地

(2) 周辺の農地と比べて著しく低利用となっている農地

#### なぜ調査が必要なの？

農地の適正な管理を怠ると、雑草の繁茂による害虫等の温床となるだけでなく、ゴミの不法投棄による悪臭や汚水の発生源となり、近隣農業者や周辺住民に大きな迷惑となる可能性がありますので、除草、病害虫駆除等、農地の適正な管理が必要となります。

農地の貸付けや譲渡を希望される場合は、地元農業委員または農業委員会事務局までご相談ください。



農地パトロールをする農業委員・農地利用最適化推進委員

## 農業者年金推進部長からのお知らせ

### ご存じですか？ 農業者年金！！



#### 加入要件

- ① 20歳～60歳まで
- ② 年間60日以上、農業に従事(農地の保有要件はありません)
- ③ 国民年金第1号被保険者(保険料納付免除者は除く)
- ▲この3つの要件を満たしている方は加入の対象となります。



保険料の額は、2万円～6万7千円の間千円単位で、自由に決められます。

しかも、**支払った保険料は全額、社会保険料控除の対象**になり、所得税、住民税の節税につながります。

将来受給する年金の原資として積み立てていく積立方式(確定拠出型)の**終身年金**です。

認定農業者等の農業の担い手には、国庫補助制度もあります

是非、ご加入を検討してみてください。

私たち、農業者年金推進部長は、農業者年金を推進しています。  
気軽に声をかけください♪



西尾ひろみ【岩村町在住】



梅本信枝【上矢作町在住】



曽我佳奈子【武並町在住】



大島政幸【串原在住】

#### お問い合わせ先

農業者年金推進部長、またはお住まいの地域の農業委員、恵那市農業委員会まで

農業委員会からの報告

浜松市/裾野市 農業委員会、恵那市へ視察訪問

平成30年10月18日(木)浜松市農業委員会23名がまた、11月28日(水)には裾野市農業委員会20名が恵那市農業委員会に視察研修で訪問されました。視察研修の内容は恵那市農業委員会の耕作放棄地の取組み・農地法3条の下限面積引下げの取組み「農ある暮らしをしたい移住定住者支援」制度について・農業委員会だより「ええのお」発行の取組み・食と農のポータルサイト「たべとる」の取組みについて、研修を受けられた後、両市で活発な意見交換をするなど、有意義な時間となりました。



裾野市農業委員会の皆さん



浜松市農業委員会の皆さん

「食」農情報ポータルサイト 恵那市の「食」と「農」に関する情報を分かりやすく伝えるため、分散した情報を集約したポータルサイトを開設しました。

恵那で生産される農産物、農と食に関わる人たち、地元食材をたべられるお店など、恵那の食と農をテーマに、食べたい人、これから農業を始めたい人に役立つ情報をお届けしています。

恵那市に届く、農業に関わるお知らせ・イベントもお伝えしていきます。

毎日の日課として「たべとる」をのぞいてみてください。

■サイトの名前「たべとる」は、「農産物を採って(穫って)食べる。その恵みをいただいて栄養を摂る。」恵那の方言で「食べとる?」と健康を気にして人から人へ聞くような、そんな意味も込めて名づけました。



恵那の味レシピ

伝統の郷土料理 「するめの麴漬け」



- 【材料】 甘酒 ひとひた するめ……………10枚  
 塩……………140g 砂糖(ざらめ)…800g~1kg  
 水……………1.5~2L

【作り方】

- ① 塩、砂糖を水に混ぜ、溶けたら甘酒の中に入れて混ぜる。
  - ② するめを洗い良く拭いて、漬ける容器の中に立て、その中へ甘酒を流し込む。
  - ③ 1ヶ月程漬けておく。(12月初旬に漬けてお正月にいただくことが多い。夏場に漬ける場合は冷蔵庫で保存すること。)
  - ④ クッキングシートを敷いたフライパンまたはオーブンで焼く。(途中で水分を吸い取りながら焼く)
- ※残った漬け汁は鶏肉や魚などを漬け込むことができます。



するめの麴漬け栄養素 ……………  
 するめにはDHA(ドコサヘキサエン酸)と同様に、コレステロールを下げるタウリンも豊富に含まれています。また、麴に漬けることでさまざまな栄養成分を作り、酵母や乳酸菌に必要な栄養を供給します。血圧を下げたり、中性脂肪の排出、疲労回復、整腸作用や美肌などに効果があると言われています。

編集後記

地域に耕作できなくなった農地が年々増えていきます。あらゆる手立ては行われているものの、荒廃のスピードは進んでいるように思います。

一方で昨年六月より若手農家グループの皆さんが月に一度開く「たべとるマルシェ」が好評です。若い人たちが農業を通じて食を発信しています。頑張る若い農家さんたちを応援したいですね。  
 (T・M)

◆編集委員◆

三浦 寿子・梅本 信枝・西尾ひろみ  
 曾我佳奈子・佐藤由里加